

平成29年度 北海道小学校長会
第4回理事研修会
第70回全連小北海道大会（函館市）
研修部 進捗状況報告 2017.12.18



研究部門のお話をさせていただく。

まず、大会のシンポジウムのテーマについて提案する。全連小の大会では、副主題にある文言や背景等を考慮して開催地区で決定することになっている。過去の大会の例を紐解くと、三つのキーワードをテーマにしている。その点を加味して提案申し上げる。

「ふるさと」「挑戦」そして「未来創造」、この三つをテーマとしたい。シンポジストには、三つの言葉にちなんだ内容を話していただくという構成を考えている。お手もとの資料には、想定されるシナリオについても掲載してある。

資料「ふるさと」「挑戦」「未来創造」のテーマについて

来るべき新しい社会において子どもが心豊かにたくましく生き抜いていくためには、社会の中で生活し、社会を創っていく力、直面する諸課題を乗り越え、自立した一人の人間として、力強く生き抜いていく力を育てることが必要である。そのためには、人と人との絆をつくり支え合う共生の意識や夢と希望に満ちた活気溢れるふるさとづくりに積極的に貢献しようとする意識など、社会の形成者としての意識を醸成することが必要である。また、環境・資源・エネルギーなどの多様な課題に対し・グローバルな視点を持ち、様々な人々との協力で解決していく力と、環境・経済・少子高齢化・地域格差などの直面する課題や震災からの復興などに粘り強く取組み、持続可能で一人一人の個性と人間的な粹を大切にする社会を実現していくためのたくましさを育むことが大切となってくる。

知識基盤社会や情報化・グローバル化が進む中、ふるさとの文化を理解し尊重する態度を育成することは、国際社会においても異文化を理解し尊重しようとする豊かな人間性を育むことになる。また、社会が急激な変化を遂げ、先行き不透明な社会状況の中でも、未来への夢や希望をもち、挑戦意欲をもち続けようとする心をこれからの時代を担う子らに育む必要がある。

そして、互いの個性やつながりがいっそう重視される新しい社会を創り出していく（未来創造）子どもたちを育てていきたい。

<参考資料>

- *平成27年度山口大会 シンポジウムのテーマ『志未来創造和をつなぐ』
副主題「志を高くもち未来に向かって共にたくましく生きる子どもを育てる学校経営の推進」
- *平成28年度高知大会 シンポジウムのテーマ『変革・チャレンジ・未来創造』
副主題「社会の変化に主体的に関わり 共に豊かな未来社会の創造に挑む子どもの育成」
- *平成29年度佐賀大会 シンポジウムのテーマ『未来を創る子どもたちに～あたたかくつよく、しなやかに～』
副主題「志を胸に轟きに和して未来を創る子どもを育てる学校経営の推進」

○シンポジウムのシナリオ（概略案）

- ・テーマの『ふるさと・挑戦・未来創造』に関する内容をシンポジストに話していただく。3部構成。
 - ・最初に、『ふるさと』にちなんで、自分が生まれ育ったふるさとについて、話していただくことで、自己紹介も兼ねる。更には、ふるさとの地での様々な人たちとのかかわりの中で、現在の自分にプラスになっていることにもふれていただく。
 - ・次に、『挑戦』にちなんで、現在の自分があるまでには、様々な困難や苦難があったことと思われる。その時、どのようなことをして難題をクリアしていったのか。さらには、高みを目指すためにどんなことに挑戦してきたのかを話していただく。
 - ・二つ話していただいたところで、参会者からの感想や質問をうける場面を設定してもよい。
 - ・最後に、『未来創造』にちなんで、今後、自分は、どんなことに挑戦していきたいかを話していただき、これからの時代を担う子どもたちにむけてのメッセージも話していただく。
- *シンポジストには、写真を用意していただく。三つのテーマにちなんだ写真を各2～3枚事前にデータでいただき、当日の話の折にスクリーンに投影するようにしたい。

シンポジウムで話題にできそうな要素

ふるさと～あたたかさ、ぬくもり、安心感、坪、伝統、文化、自己の確立、基礎、よさ
挑 戦 ～たくましさ、粘り強さ、目標、努九支え合い、協力、転換点、きっかけの言葉
未来創造～あこがれ、夢、希望、貢献、グローバルな視点、他者理解、共生、挑戦意欲、
豊かな人間性

○シンポジスト

- ・葛西 紀明 氏（スキージャンパー）
- ・佐藤 麻美 氏（HTB 編成局編成部）
- ・青田 基 氏（北海道PTA連合会長）

次は、分科会運営についてである。道小が今まで行ってきた分科会運営のよさを全国に示すよい機会ととらえているので、道小方式をできるだけ取り入れる。ただ、各分科会での発表が2本あること、1つの分科会の人数が200人前後と道小の大会の5倍近くいることなどを考慮して、13の分科会の流れは統一していきたいと考えております。今回、提示した原案をもとに、皆様からの意見も反映させ、「分科会の充実ことが最大のおもてなし」という道小の理念を全国の方々に伝えられる分科会になるよう努めていきたい。なお、来年度、担当者が決まってから、細かい点を詰めていきたいと考えている。まだ、修正の余地はあるので現段階でお気づきの点は、研修部の方へお願いします。

最後に、本道は来年の研究発表者が決まっている。いち早く人選していただいた各地区の皆様へ感謝する。今後は、道小研修部より各発表者へ連絡をとり、本年度中には、研究発表に対しての見通しをもてるようにしたい。各地区の発表者の皆様によりしくお伝え願いたい。